

上京 史蹟と文化

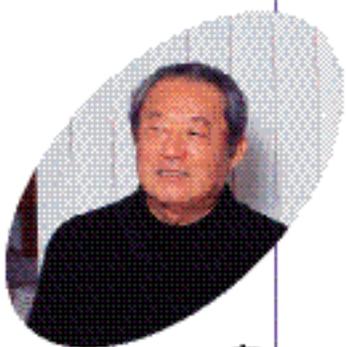
2005 VOL. 28

御苑の雅び華

御苑の左近の家は、梅が植えられていたらしい。文化の薫染につれて、梅でなく華やかさが好まれ、桜へと移ったようです。その桜と梅が四季折々に美しさが舞っています。



美を創る



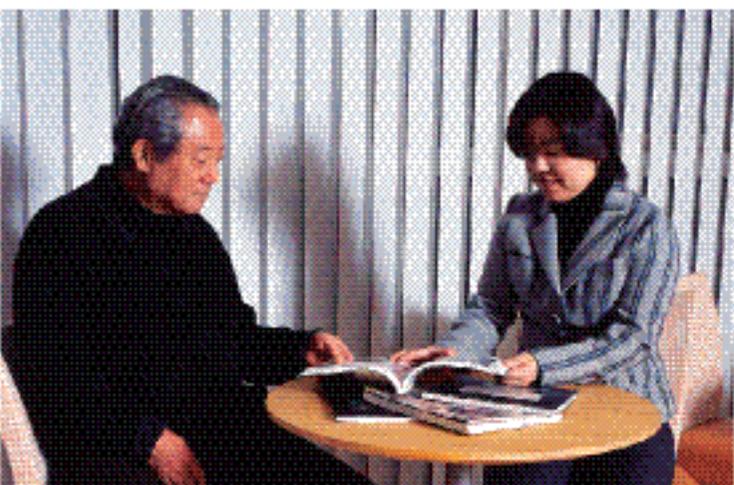
友禪作家

羽田登喜登

京都市上京区下立売通馬丸百人

下立売通、京都府庁の西に鉄筋コンクリートの瀟洒な建物があつた。ここは重要有形文化財「友禪」保持者に認定されている羽田登喜男氏の子、孫の作品を所蔵・展覧されている「羽田美術館」である。羽田登喜男氏は明治四十四年に金沢で生まれ、若くして京都で友禪の修業をされ、加賀友禪を基礎としながら独自の京友禪の世界を作つて来られた巨匠である。その美術館の一室で、作品を前に子息の登比と孫の登喜さんにお話を伺つた。

もつとて京友禪は多くの分業にかつて成り立つていた産業で、二十五ほどの工程が重要な役割を果たしていたという。それを二工房で一貫製作しようというのが羽田工房の主眼

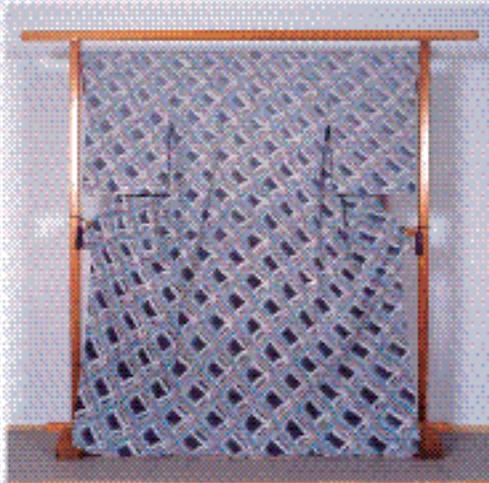


だといわれる。京都を代表する伝統工芸の友禪工房が上京区内に存在することは、地元の間りでもある。登比は子どもの頃から工房の中で生活するうちに友禪の仕事に入りこまれたという。中学校卒業後、当然のように日吉ヶ丘高校の美術コースから、京都市立美術大学へと進み、日本画を専攻された。すでに友禪の修業の基礎ができていたから、自然に父親のお話を聞いて友禪の道一筋に歩んで来られた。

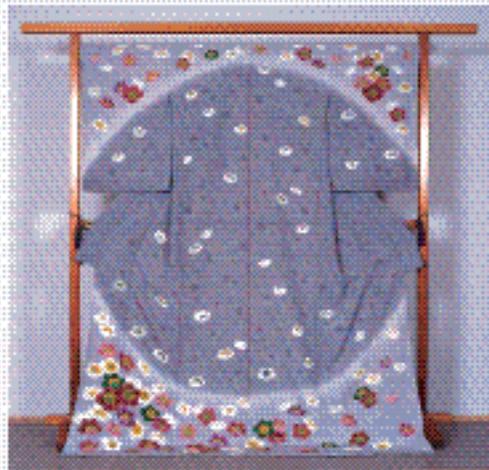
登喜さんは三歳まで工房で生活し、その後厩舎を別にされたが、好きな絵筆と離れることはなく、小学生の時に日吉ヶ丘高校の美術コースが純粋美術工芸高校として独立することを父親から聞かされ、それが一日中絵が描



麻苑瑠鳥
羽田 龍雄



平安の聲
羽田 龍



寶譜
羽田 龍雄

ける学校と知り、いくつがあった夢の一つとして入学し、その後、京都市立美術大学の染織科、さらに大学院へ進み、三代目の友禊作家とされたのである。

登壇さんは語られる。——祖父や父の名があつて籍同などもあつたが、三千歳を越えてからは、いろんなことが案になつて、祖父

や父と比べられることにも動じないようになつたと思う。女性である自分としては、友禊が女性のための着物のだから、祖父や父よりも着る立場が近いので、出来上がった時の

楽しみは何にも代えられないものだ。手描き友禊はいろんな色目が使え、手間も

かかるが、思い通りの色づかいに恵まれてい

る。何度も水を滲らせることによって身になる。着心地のよい着物になるのだといわれる。

三代が同じ工房で同じ作業を日々くりかえされているというのは、京都の、いや日本の伝統継業の中でも前述洋々たるものを感じさせられた。

烏丸通

京都には難読地名が多いといわれます。「烏丸」もその一つではないでしょうか。京都の人であれば難読とは思えないのですが、案外正確に読まれていないのです。その一つは「からすまる」、時には「とりまる」といわれて驚いたこともあります。地名は「からすま」でも、公家の烏丸家は「からすまる」と読むのが正しいのです。現在の烏丸通の北端は今宮通、南端は京都駅を越えて久世橋通まで八・五キロほどあります。大正初年頃の地図を見ますと、今の幅の烏丸通は今出川通から京都駅まで、それより南には道路がありません。昭和初年の区画整理により市街地の縦通りを南へ延長して格子状の道路が整備されます。その後、地下鉄烏丸線の工事により狭い烏丸通を久世橋通まで拡幅して幹線道路となったのです。



京の史蹟シリーズ

太小路 小路

おうじ

こうじ



(その10)

京都駅から丸太町通までは明治四十五年六月に京都市電として最初に開通した部分で、丸太町通から今出川通までは、つづいて大正二年五月に開通、今の北大路通（烏丸車庫）までは大正十二年十月に開通していますから、その頃に三間幅を十間（一八メートル）に拡幅したり、新設したのです。京都駅から丸太町通は東側を二七メートルに拡幅し、丸太町通から今出川通までは西側を拡幅したために烏丸丸太町で喰い違っているのです。今出川通から北は大正四年の地図でも上御霊前通まで、江戸時代の地図では相国寺境内の藪地になっています。その真下を地下鉄が走るなどは想像もできなかったことでしょう。この広い烏丸通の完成が大正四年の御大典に合い、京都駅から丸太町通を経て堺町御門へと馬車を連ねた大行列が進み、明治天皇の東遷以来五十年ぶりに天皇が京都へ帰って来られた姿を

拝んだのでした。

平安京の

烏丸小路

ところで昔の烏丸通はどうだったのでしょうか。平安京では幅四丈（約二二メートル）の烏丸小路で、左京三坊にあたり、東洞院大路の一本西の小路でした。大内裏

の東側の左京は平安時代でも地価が高く、上流の公家の屋敷が建ち並んでいました。そういう中に今の京都御所の母体となった里内裏（さとないり）もあつたのです。

今の丸太町以北の烏丸通の中央部を烏丸小路が貫いていたようで、幸いにも地下鉄烏丸線や西側のビル工事では、かなりの遺物が発見されました。京都の市街地は千年余にわたり住宅や宮殿が建設されてきましたから、地下の遺構は攪乱し、広い遺跡の発見はありませんが、烏丸小路の西側には歴史に残る公家屋敷が記録されています。鳥羽・崇徳・近衛天皇三代にわた



上 御 靈 神 社

る里内裏である土御門殿（土御門烏丸内裏）や、平安時代末から鎌倉・室町時代を通じて藤原氏直系の近衛家の本邸となった近衛殿のほか、枇杷殿、菅原院などがありましたが、大形の井戸や当時の陶磁器類の発見にとどまっています。

鞍馬口から 今出川まで

現在の烏丸通を北の方から歩いてみましょう。上京区の北端は鞍馬口通の少し南から始まります。

その地下は鞍馬口駅です。地下鉄の計画当時、この駅はなかったの

ですが、地元の熱意によって追加されたと語られています。この駅の南端あたりから上御霊前通と交又します。

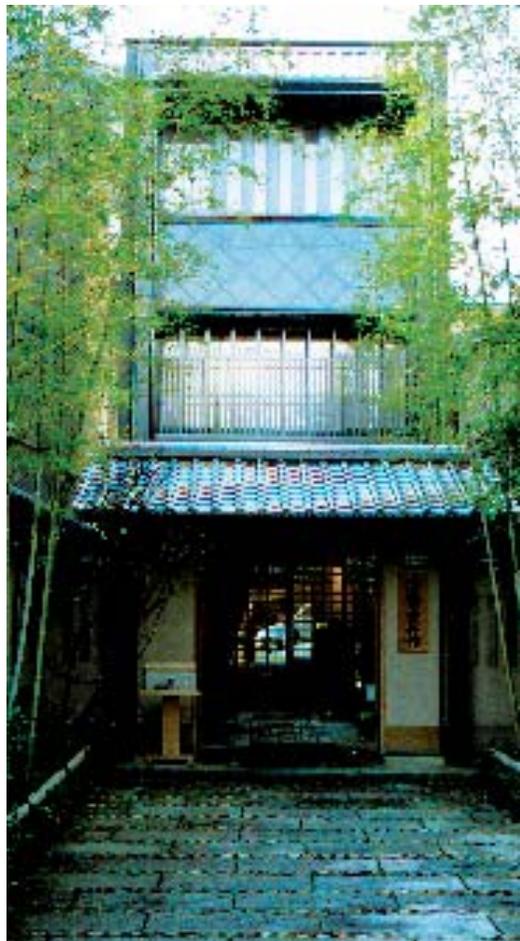
御霊神社（上御霊神社）は政争による無実の罪に殉じた怨霊を祀る平安時代の御霊社の一つです。

長岡京造営で犠牲になった早良親王（追尊崇道天皇）らの霊を上出雲路の地に鎮められたのが創祀とされています。この位置は今も変わりなく、賀茂川を背景にした御霊の森といいました。

室町時代の末、文正二年（一四六七）に畠山政長が、この御霊の森で戦火を仕掛け、それが広がって応仁の乱となったのでした。細川方の西陣に対して東陣といわれました。

ここから南の烏丸中学校から京都市産業技術研究所繊維技術センターにかけては相国寺の藪といわれる大きな藪地でした。上御霊前通が西へ伸びるあたりを内構町といい、室町幕府の管領であった細

京 菓 子 資 料 館



川勝元邸の内構に由来するとされています。このあたりから南西一帯には室町幕府や、その武将たちに因んだ町名を多く残しています。

烏丸通の東側の相国寺は、大相国（太政大臣）になつた征夷大將軍足利義満が、永徳三年（一三八三）に萬年山相国承天禅寺として創建しました。高さ一〇〇メートルにも及ぶ七重の大塔など伽藍も整い、京都五山の第二に列せられる大寺となりましたが、応仁の乱以来、度々の大火に遭い、重要文化財の法堂のみを残し、その後復興された諸堂や塔頭をもって上京区を代表する禅刹の偉容を残し

ています。

相国寺の西側には観世流の河村能舞台、京菓子資料館や、最近新築された同志社大学の寒梅館というような文化的な香り高い施設が集まっています。京菓子資料館は京菓子の老舗である俵屋吉富が伝えてきた江戸時代からの古文書や菓子の木型をはじめ、菓子でこしらえた生け花そのもののような糖芸菓子など、その歴史を語る貴重な資料が目を楽しませてくれます。その南にある勝間家住宅は京都市の歴史的意匠建造物に選定されており、いかにも大正期の京都の町家という姿を残しています。さ



藤井右門顕彰碑

らにその南隣に大きな石碑が見えます。ここに立てられた説明板によれば、江戸中期の尊王論者藤井大和守忠明（右門）の宅跡を顕彰したものです。右門は京都や江戸で尊王論や兵学を講義しましたが、明和三年（一七六六）幕府によって捕われ、山縣大貳やまがたにいとともに処刑されました。これを明和事件といいますが、その子孫は右門の旧宅に住み、明治維新に勤王家として活躍しました。近くにあった薩摩藩の屋敷の関係から志士たちの会議連絡の場所ともなっていました。その旧宅は大正十一年に今出川通の区画整理により取りこわされ、跡地にこの顕彰碑が立てられたのです。

上立売通の角にある大聖寺は上京区内に多い尼門跡の一つで、足利義満が光厳天皇の妃であった無相定円尼のために室町第の中に建てた岡松殿おかまつどのに始まり、歿後、寺に改めました。度々の戦火に寺地は転々とし、元禄十年（一六七九）に至り、岡松殿の旧址に戻りました。一方、鎌倉幕府の金沢実時かなざわさねときの妻とされる無外如大尼むがいにょだいにを開祖とする景愛寺けいあいじの伝統も受けついでおり、門跡寺院としての格式を固く護りつつけています。歴代の尼門跡遺愛の難人形などを伝えており、明正天皇の河原御殿の石を移して造られた枯山水庭園は京都市指定の名勝です。

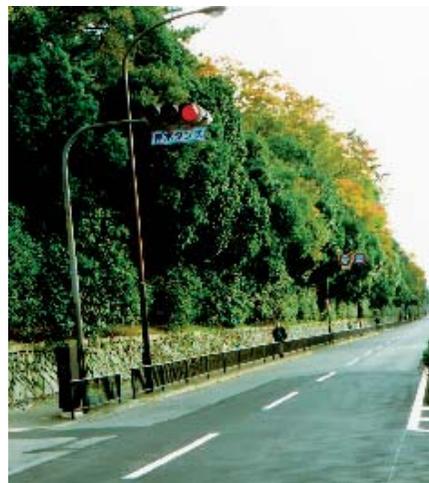
今出川通の一筋北の小道を西へ

入ると、京都保護観察所の向かいのマンシヨンの敷地内に大きな石が置かれています。この石は発掘調査の時に出土したもので、花の御所（室町幕府）の庭の景石と推定されて保存されています。烏丸今出川の東北部は、文久二年（一八六二）に薩摩藩邸となりました。明治になってその跡地に同志社が創立され、公家屋敷跡や相国寺の旧境内へと校地が広がって行ったのです。

今出川から丸太町まで

今出川通から丸太町通までの一・三キロの東側は京都御苑の石垣が連続しています。明治以前の京都御苑には百八十軒ほどの公家屋敷が密集し、烏丸通の西側にまで広がっており、築地塀が連続していたのでした。石垣の間には北から乾御門・中立売御門・蛤御門・下立売御門の四つの高麗門こまゐりもんが開いています。これらも現在とは位置

京都御苑の石垣



が異っていました。

一条通より中立売通あたりを烏丸頭がしらといい、公家町でしたが、明治以降は皇居の前という意味で龍前町まへちやうと改められました。中世には烏丸川が流れていましたが、これも応仁の乱後に廃川となったようです。

今も公家屋敷の名残りとして、府民ホールアルティの片隅にあるエノキの大木は、高さ二五・五メートル、枝張は二七・七メートル、胸高幹周四・九五メートルという老巨木で、東園家の邸内ひがそのにあったものです。御苑からこのあたりに多くの巨樹がありますが、中でもよく目立ち、地上四メートルあたりで六本に分かれ、主幹の表面

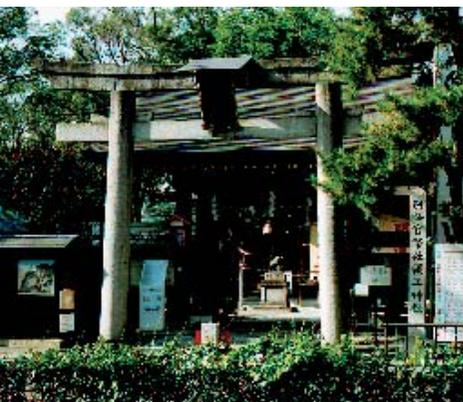


府民ホールのエノキ

には深い縦溝があつて断面は星形をしており、まだまだ元氣な京都府指定の天然記念物で、上京区民の誇りの木にも選定されています。

この北側には金剛能樂堂が移転新築され、上京区内の新しい文化の拠点となっています。さらにその南、平安会館には立派な日本庭園が残され、さすが京都の宿泊施設だと観光客の注目を浴びていますが、これも醍醐家の邸跡なのです。

下長者通の南東角には猪の石像で知られる護王神社があります。ここは中院家の址で、和氣清麻呂とその姉広虫を祀っています。清



護王神社

麻呂は奈良時代の末、宇佐八幡宮の託宣によつて天皇になろうとした道鏡の野望をくじいたために大隅国へ流される途中、猪の大群があらわれ、その命を守つたという故事によつて狛犬の代りに猪像が置かれています。戦前の十円札には和氣清麻呂の肖像とともに猪像が描かれていたところから高額紙幣の十円札をイノシシと呼んでいたことを覚えておられる方もあろうかと思えます。境内にはイノシシに因む数々の品が展示されています。その後、清麻呂は平安京の造宮大夫となり、平安遷都の功労者でもあるところから、和氣氏の氏寺の高雄の神護寺の小祠に

祀られていましたが、孝明天皇から護王大明神の神号を受け、明治十九年には別格官幣社として現在地へ移されました。

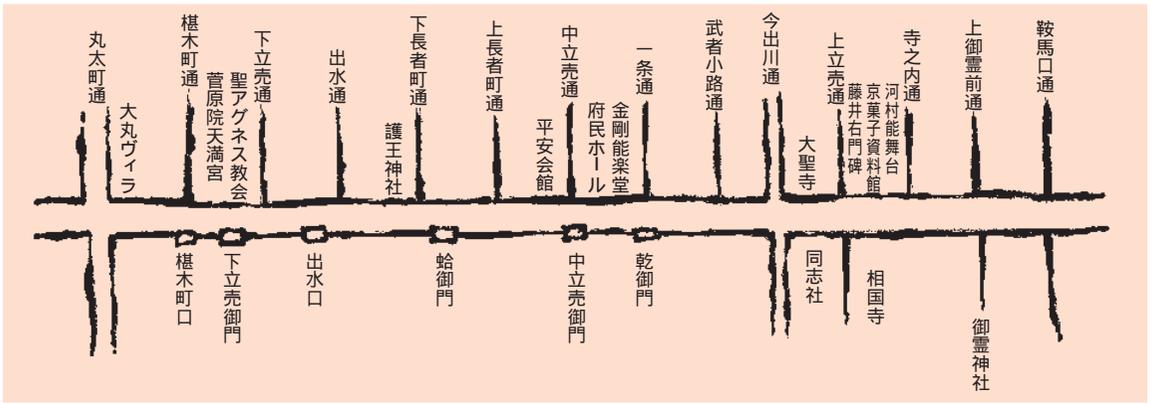
蛤御門はもと新在家御門といい、普段は扉が閉じていました。しかし天明八年（一七八八）の大火の時、避難のために扉が開かれたので「焼いて口あく蛤」になぞらえてこの名がつけられました。勿論その時の門は焼失しています。この門を有名にしたのは元治元年（一八六四）七月十九日、御所の門を警備していた薩摩・会津の藩兵と長州藩兵の間に起きた蛤御門の変で、今も門柱や扉に弾丸の痕を残しているといわれます。最近では人々が指でなぞるために白くなり、穴も大きくなっているようです。

昭和四十九年頃、地下鉄烏丸線の工事中に出水・下立売・榎木町・丸太町の四箇所で濠と石垣が発見され、これが旧二条城のものであることがわかりました。それは石

旧二条城の石垣



垣に石仏や石塔などが使われていたからなのです。室町時代末の永禄十一年（一五六八）に織田信長は足利義昭を奉じて入洛し最後の足利將軍とします。その時、義昭のために二条城（武家屋敷）を突貫工事で造営しますが、宣教師のルイス・フロイスの記録の中に、石が欠乏したので石仏に縄をかけて運ばせたという記述があつて、そのことを示していたのです。この石垣は榎木町口を入つた北側に復原されており、石仏は京都文化博物館や竹林公園で保管されています。（本誌第二二号、上京の埋蔵文化財 旧二条城の発掘調査 参照）



下立売通の西南角には前にも紹介した煉瓦造の聖アグネス教会の聖堂があります。その南隣は菅原院天満宮です。入口には「菅家邸址」という石標があり、ここが菅原氏の邸宅「菅原院」のあったところで、祭神菅原道真の父是善ら祖父以来三代が住んでいました。道真もここで生まれたと伝えられています。この境内に接して北側は聖アグネス教会、西側は平安女学院の明治館が見えます。明治館は平成十六年六月に国の登録有形文化財に登録されて保存が一步進むことになりました。

上京の最南端、丸太町通の手前



下立売御門より 菅原院天満宮

ズ建築事務所、清水組の施工で、室内にはヴォーリスの計画になる



大丸ヴィラ

には大丸ヴィラというイギリス風の洋館が木立の中に見えます。この建物は昭和五年に大丸百貨店主の下村家の居宅として建てられました。洋館が日本化しつつある頃にイギリスのチューダー（チュードル）様式でまとめられているところから中道軒と名づけられました。鉄筋コンクリート造でありながら木造のように見えるのは、急勾配の屋根、妻面に太い柱型を見せるハウステンパーとなっています。

学校法人 近畿予備校

選進アカデミーコース

- 私立医学部クラス ●私立歯学部クラス
- 薬・獣医学部クラス

高校生コース

医学専門予備校。50年以上に渡る実績と信頼。

0120-399-475

〒602 京都市上京区梅丸通今出川下る梅屋町475
TEL.075-441-6681(直) 地下鉄今出川駅⑧番出口南スグ
URL: <http://www.simel-gakuen.ac.jp>

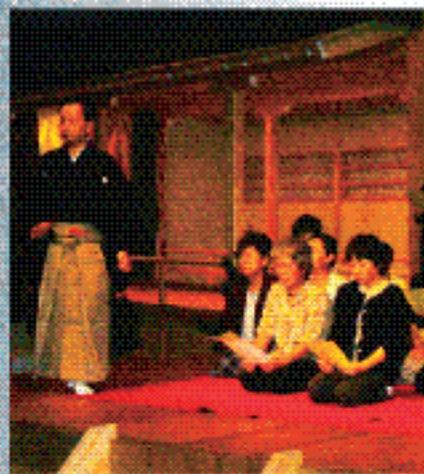
アメリカのキッシンジャー社の家具が配置されています。家具とともども京都市の登録文化財に登録されています。南側にある地下鉄丸太町駅の入出口も表の塀に合わせています。この出入口を通る度、とかく無味乾燥な感じを受けやすい駅施設にやすらぎを与えてくれるように思えるのです。

ここから真南へ、幅広い烏丸通は下を走る電車とともに一直線に竹田駅へ向かうのです。

文化 大学

上京又民ふれあい

今年の文化大学は
区民の皆様へ伝統芸能を
学んでいただくこと
金剛流能楽師の
種田道一先生をお招きし
十月八日に金剛能楽堂で
開催されました。
種田先生に仕舞や能の
お話をいただいた後
参加された方々に
舞台にて本物の能舞台の感触を
体験していただきました。
伝統芸能をより身近に
感じていただくことができました。



能 上京 新

今年で四十回の節目を迎えた「上京新能」は、
九月二十一日に行われ、白麻神宮を会場に第一
部として区民による舞踊子、仕舞、琴の演
奏が披露されました。
火入式につづいて第二部が始まりました
が、降雨により河村能舞台に場所を移す
ことになりました。主な演目として、
いちひめ雑奏会の舞臺「五常楽」、宮
城社・麻ノ会の琴演奏「四季の眺め」、
観世流・舞踊子「羽衣」、金剛流・仕舞
「笠之段」、大蔵流・狂言「鬼瓦」、観世
流・能「高砂」が演じられました。
会場変更という事情はありましたが、十分に古
典芸能の幽玄の世界が堪能できました。





秋の上京

茶会

上京区文化振興会と上京区役所が共催する恒例の「秋の上京茶会」は、十二月三日に大本山相国寺を会場に懸十家の懸釜により開かれました。
 四百五十人を収める参加者は、一晩の抹茶と寺院の景色を満喫し、さわやかな秋のひとときを楽しんでいきました。



上京区民 ふれあいまつり

2004

例年、区民の皆様にご覧になっております「上京区民ふれあいまつり2004」が十月二十日に、

小南が降る中、元西陣小学校において開催されました。

ちびっこからお年寄りまでの多くの区民が参加され、区内の諸団体による趣向を凝らした模擬店、二条城北小学校の児童や上京中学校の生徒による音楽演奏、福祉歌謡歌手の網野ひとみさんが出演されるなど、区民手づくりのまつりとなりました。

集まった約五千人の区民は、おいしい食べ物や楽しいゲームなど、まつりに興じていました。





教室 ガーデンデニング



年末にむけて松、葉牡丹を花材に造るある若玉が出来上がり、参加者は心豊かな癒しの時間を過ごしました。

十一月十九日にホテルルビノ京都堀川に於いてガーデンデニング教室が開催されました。「花工房」の白尾孝生社長を講師に迎えて、若玉づくりに取り組めました。

上京区民 ふれあい史蹟 ウォーキング



今年で第十四回目となる「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」が、十二月二十八日に開催されました。

今回は上京区散策マップ「京都上京を歩く」の完成を記念して、地区上の「平安京界わいを歩く」コース、西陣森会館前から丸太町通を經由して北野天満宮までの約四キロを笑顔に歩きました。

約二百名の参加者は、上京の様々な史蹟を巡りながらの散策を楽しみ、文化の香り高い上京のまちのよさを再発見し、さわやかな汗をかきました。

人権月間の つとめ



十二月の人権月間に伴い、十二月十日に、ホテルルビノ京都堀川にて、講師に漫才師の林家リンスカレエ子のお一人をお招き、「子育ての前に親育て」を演題に、講演会が開催されました。

家族愛をテーマに、家族でのふれあいを見つめ直していただくこと、親たちの生き方について、漫才を交えた講演漫才形式でわかりやすく話していただきました。

笑いを交えた講演会に約百二十名の参加者は熱心に聞き入っていました。

まいますが、当時の近衛家当主・
 政家（二四四四～一五〇五）は、
 この御霊殿の地に近衛家の本宅を
 再建しました。「近衛殿」として
 生まれ変わった邸宅は、洛中洛外
 図屏風「歴博甲本」や「上杉本」
 にも描かれ、江戸時代初期に烏丸
 今出川南東の広大な敷地に移転す
 るまで、近衛家の本宅として使用
 されました。近世に入るとここは
 美しいしだれ桜で著名な「近衛殿
 桜御所」と呼ばれるようになり、
 桜を愛でる宴の席や、隠居した当
 主などが住まいする近衛家の別邸
 として存続し続けました。

今回の調査地点（臨光館地点）
 は、新町キャンパスの南端に位置
 し、京都市上京区近衛殿表町ほか
 に属します。調査の結果、南北朝
 時代の溝や、室町時代の溝・土坑、
 安土桃山時代から江戸時代につけ
 ての布基礎（板塀）、蔵、石敷、
 石組がみつかっています。

なかでも注目されるのは、室町
 時代後半頃の土坑です。とくに調



写真 室町時代の土坑からみつかった土器・陶磁器

薬 匠

本家 玉壽軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
 TEL (075) 441-0319・414-0319

新・古茶道美術品
 清昌堂
 やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
 〒602- TEL (075) 431-1366
 0061 FAX (075) 431-1370
 東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8
 〒162- TEL (03) 5261-4566
 0856 FAX (03) 3235-5677

査区の西側で検出したものは、東
 西方向に長軸をもつ垂方形の土坑
 で、規模は長軸が三メートル、短
 軸が二メートル、深さが一・五メー
 トルです。壁面には水が滞留して
 いた痕跡がみられたため、井戸の
 ような機能をもっていた可能性も
 あります（写真）。埋土からは
 大量のかわらけ（素焼きのお皿）
 と中国製の陶磁器をはじめとする
 十五世紀後半から十六世紀前半ま
 での土器・陶磁器がみつかってい
 ます（写真）。その中には、中
 国製の青磁で碗か皿とみられる器
 の外面底部に、朱書きの文字を記
 した資料があります。この朱書き
 の文字は「景」と判読することが
 できます（写真）。

近衛家には、「景陽軒」という
 雅号をもつ人物がいたことがわかっ
 ています。彼は、前述の近衛政家
 の弟にあたる人物で、政家の日記
 『しんげいけん後法興院記』や、政家の息子・
しんげいけん尚通（一四七二～一五四四）の日
 記『しんげいけん後法成寺開白記』の記述など



写真 室町時代の土坑からみつかった青磁と朱書のもじ「景」

から、洛北の岩倉に住み、「近衛
 殿」との間を頻繁に往来していた
 ことがわかっています。「景」の
 字は、この「景陽軒」を指すので
 はないかと考えています。

近衛家は、古代より天皇を中心
 とする公家の筆頭に挙げられる代
 表的な家柄です。近衛家との関連
 が想定される今回の出土資料は、

京都の公家社会の歴史を考えるう
 えでも第一級の資料であるといえ
 ましょう。今後、その実態解明に
 むけて調査研究活動を進めてゆき
 たいと考えています。

同志社大学歴史資料館

松田 悦子
 渡辺 悦子

永年の信用
 まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社 京都市中京区扇丸通三条下る 番075(221)-4000
 フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆葬儀式場◆

公益社北アライホール(堀川駅前) 京都市北区南河通堀川東入番 075(414)0420
 公益社中央アライホール(五条) 京都市東山区五条通大和大路番 075(551)5555
 公益社南アライホール(堀川八条) 京都市南区堀川通八条下る西御番 075(662)0042
 公益社宇治アライホール(宇治駅前) 宇治市橋島町(文教大宇治)番 0774(20)0042
 公益社東アライホール(大津) 大津市朝日が丘1丁目番 075(523)0042

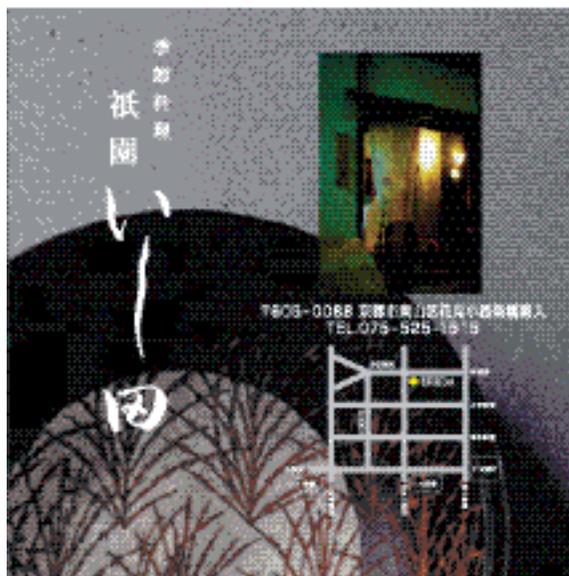
宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

くつろぎ ¥4,042(税別)



ホテルルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161代 FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>



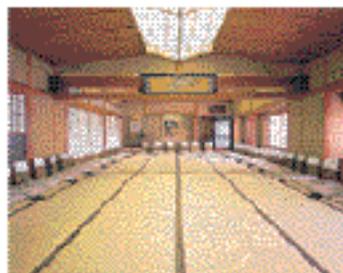
季節料理
祇園

〒603-0068 京都市東山区花園中町御所前
TEL 075-525-1975



元祖

ぼたん鍋と京料理
ほたん鍋かき
以上、上階常設の丸
石の囲炉裏・火盆



「上京史蹟と文化」は上京区役所まちづくり推進課で販売致しております (TEL 441 0111)

花にまつわるエピソード…
季節も添えて演出します。



心こもった贈り物 Flower Gift

～ 花束 アレンジメント グリーンバスケット スタンド花 etc. ～

フラワーアレンジメント教室 開催中!!

本 店 京都市上京区烏丸通今注所下ル TEL 075-414-8700代 FAX 075-414-7787

フリーダイヤル 0120-48-8700 URL: <http://www.fanakobo.co.jp> 本店2FにてCafeも営業しております。

新島路店 京都市中京区新島通西下ル
TEL/FAX 075-367-6700
長岡店 船場京町丁四ツ角西
TEL/FAX 075-467-0167
湯宮店 大津市湯宮 日ノ丸パークホテル内
TEL/FAX 077-645-6567



独立以来セ〇年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にもまれつつ
狭学盲教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手にします。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下ル (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL 463-0111代

http://homepage3.nifty.com/kyotokidzono_k/



雲
枕

創業寛政5年 京九子傳時傳時

京九子傳時 俵屋吉富

本店 京都・室町三土巻 電話 (075) 22111代
高丸店 京都・高丸三土巻 電話 (075) 21011代

安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラは日本農産物検査番号3141426、
米農産物検査番号3226913を取得しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の皆様が目が厳しくなる中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラ」。すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP®に準じた製造工場で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様は日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に応えられる理由です。

※医薬品の製造管理及び品質管理に関する基準



サン・クロレラは日本農産協に認定されています。
財団法人日本農産・畜産食品協会の認定マークは、品質別農産物基準に基づき、
協会の厳正な検査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。
サン・クロレラの製造工場はJIS D 9401の認定も取得しています。